

一 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えて下さい。

メロスは單純な男であつた。買ひ物を背負つたままで、のそのそ王城に入つていった。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懷中からは短剣が出てきたので、驕りが大きくなってしまった。メロスは王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであつたか。言え！」暴君ディオニスは静かに、けれども威厳をもつて問い合わせた。その王の顔は蒼白で、眉間にしわは刻み込まれたように深かつた。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは、A 答えた。

「おまえがか？」王は、嘲笑した。「しかたのないやつぢや。おまえなどには、わしの孤獨の心がわからぬ。」

「言うな！」とメロスは、B 反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥すべき惡徳だ。王は、民の忠誠をさえ

疑つておられる。」

「疑うのが正当事の心構えなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえだらだ。人の心は、あてにならない。人間は、もどかと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほつとため息をついた。「わしだつて、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るためか。」今度はメロスが嘲笑した。

「黙れ！」王は、さつと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「人のはらわたの奥底が見え透いてならない。おまえだつて、今にはりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王はりうだ。うねぼれでいるがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命」いなど決してしない。

ただ、「——」と言いかけて、メロスは足元に視線を落とし、瞬時ためらい、ただ、私に情けをかけたいつもりなら処刑までに三日間の日限を与えてください。たつた一人の妹に、亭主をもたせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな」と暴君は、しゃがれた声で低く笑つた。「とんでもないうそを言つわい。逃がした小鳥が帰つてくると言つのか。」

「そうです。帰つてくるのです。」メロスは必死で言い張つた。「私は約束を守ります。私を二日間だけ許してください。妹が私の帰りを待つてゐるのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを人質としてここに置いてこよう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかつたら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてくださ。」

それを聞いて、王は、残虐な気持ちで、そつとほくそ笑んだ。生真面目なことを言つわい。どうせ帰つてこないに決まつてゐる。このうそきにだまされたやりして、放してやるものおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるもの氣味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいぢやつぱらにうんと見せつけてやりたいものさ。

（願いを聞いた）その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰つてこい。連れたら、その身代わりを、きつと殺すぞ。ちよと遅れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやうぞ。」

「ばは、命が大事だつたら、連れてこい。（おまえの心は、わかつてゐるぞ。」

メロスは悔しく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなつた。
竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、よき友とよき友は、一年ぶりで相会うた。メロスは、友に一切の事情を語つた。（セリヌンティウスは無言でうなづき、メロスをひしと抱きしめた。友と友の間は、それでよかつた。セリヌンティウスは繩打された。メロスはすぐに出発した。（初夏、満天の星である。）

問一 一線部①「メロスは單純な男であつた」とはどういう意味ですか。次から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア すぐ激怒する点
ウ 他人を信じやすい点
エ 他人の影響を受けやすい点

イ 思つた通りに行動する点
エ 答えなさい。

問二 一線部②「王城に入つていった」は何のためですか。文章中の言葉を使って、一五字以内（句読点含む）で答えなさい。

ア 一線部③「その王の顔は蒼白で、眉間にしわは刻み込まれたように深かつた。」とあります。王のどのよう

な気持ちを読みとることができますか。次から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 今まででてきたことを後悔して、深く反省している気持ち。

イ 誰かに裏切られないかということだけを警戒している気持ち。

ウ 自分は一人ぼっちだと思つて、心を痛めているといふ気持ち。

エ 自分の本心をかくして、頑固になつてゐるといふ気持ち。

問四 A・B においてはまる言葉を次から選び、記号で答えなさい。

ア ためらうように イ いきり立つ ウ 悪びれず エ おびえるように

問五 一線部④「平和だ」・B「清らかな」は形容動詞です。それそれの活用形を漢字で答えなさい。

問六 一線部④「人のはらわたの奥底」とはどういうなものですか。文章中から四字で抜き出して答えなさい。

問七 一線部④「願いを聞いた」とあります。王はなぜそうしましたか。次から最も適当なものを選び、記号で

答えなさい。

ア 人を常に疑つてかかることが正しいことだということをメロスに教えるため。

イ 人に疑うよりも信じる力がつらいということを民に知らしめるため。

ウ これから一切、人を信じしないようによしよと決意を固めることができるため。

エ 人は信用できないということが正しいということを証明できるため。

問八 一線部④「おまえの心は、わかつてゐるぞ」とあります。王はメロスがどうすると思つていますか。一〇字以内（句読点含む）で答えなさい。

問九 一線部⑦「セリヌンティウスは無言でうなづき、メロスをひしと抱きしめた」とありますが、セリヌンティ

ウスはどのような気持ちで「抱きしめた」のですか。次から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 信頼する気持ち イ 不安な気持ち ウ 同情する気持ち エ 孤独な気持ち

問十 一線部⑧「初夏、満天の星である」とあります。メロスのどのような気持ちを読みとることができますか。

（約束）という言葉を入れて、一五字以内（句読点含む）で答えなさい。

九	九

一	一
二	二
三	三
四	四
五	五
六	六
七	七

問五 10点×2

他各8点

